

## 生物科学研究科

学生数の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	17 (17)		18 (8)		1 (5)		— (—)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	33 (29)			26 (56)			2 (—)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	2 (—)	4 (2)	— (—)	2 (1)	10 (5)			
	退学者	1 (1)	— (1)	1 (2)	— (—)	3 (3)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・( ) は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

### 1 生物科学研究科の活動

本研究科の教育目標は、生物科学の研究分野の進展に寄与する研究成果を挙げた優秀な課程修了者をより多く輩出することである。今年度は生物科学研究科最後の年ということもあり18名（留学生1名を含む）という多数の課程修了者を出すことができた。修了者の進路は上表のとおりであるが「その他」の中には海外に留学するものが4名おり、修了者の今後の活躍が期待される。

平成13年度に組織した「教員－院生連絡会」は今年度は4月と12月の2回開催され、教員と院生の努力の結果、順調に発展した1年であった。4月は新入生歓迎会も兼ねたこともあり盛況であった。12月は院生から多くの要望が出され活発な議論が行われ、今後も生命環境科学研究科の構造生物科学専攻と情報生物科学専攻の教員と院生で継続して運営されることが確認された。

### 2 教員の教育業績評価の状況

研究科を担当している教員の教育業績評価は博士と修士の学位授与数、質の高い国際雑誌に掲載された論文数、国内外での学会発表回数（特に国際会議での招待発表）などを総合的に判断している。研究業績の上がっている研究室には自ずと多くの学生が集まり教育業績も上がる傾向がある。懸案であった、教員全てを評価してデータ化する取り組みはまだ十分ではない。これは新研究科での大きな課題である。

### 3 自己評価と課題

例年になく多くの博士課程修了者を出したことが、院生数が減っても論文発表数が29報から33報に増加したことにつながった。今年度は教員と院生の努力によって課程修了者の激増という成果を挙げることができ、研究科の最終年度を有終の美で飾ることができたのはすばらしいことであった。また昨年度から発足した「大学院生優秀論文表彰」にも1名の院生を推薦することができ、さらにその院生が「学長表彰」の栄誉を受けることになり嬉しい限りである。このように本研究科の1年間の活動は満足できるものであったが、これは教員と院生の協力と努力の賜物である。このようなすばらしい関係を新研究科にも継承して行きたいと願うものである。